

小児看護学

【科目構成とねらい】

小児看護学では、子どもを「一個の人格を持ち、尊重されるべき存在」「環境との相互作用の中で生活し、成長・発達し続ける存在」「限りない可能性を持つ存在」としてとらえる。

子ども時代は、ヒトから社会的存在としての人間へと絶え間ない成長・発達を遂げる時期である。小児看護学は、このようなライフステージにある、あらゆる健康レベルとあらゆる状況にある子どもとその家族を対象とする。より良い社会の中で人は育つことを理解し、プライマリ・ヘルス・ケアの理念に基づき子どもの健康が保持・増進されること、健やかな成長・発達が保障されること、苦痛が緩和し安楽に過ごせること、時には穏やかな死を迎えることに向けた看護について学ぶ。

「子供の成長発達と看護」

小児看護の目的は、子どもの権利を尊重し、一人ひとりの子どもが健康に育つことのできる環境を整え、生活の質（QOL）が向上するように支援することである。子ども時代が人間形成の基盤として重要な時期であることを前提とし、子どもが健やかな成長・発達を遂げるために、子どもを取り巻く社会環境や子どもの成長・発達に重要な影響力を持つ家族の役割について学ぶ。看護の主体としての子どもの倫理的課題を感じ取り、子どもの最善の利益を考えた看護のあり方を考察する。

「子供のヘルスプロモーションを支える看護」

子どものライフスタイルや健康は、子どもを取り巻く環境と、家庭、地域の在り方に強く影響され、その中で日常生活行動や健康管理行動が発達する。子ども時代は、発達段階により病気に対する理解や対処行動が異なる。また、成長・発達の途上にある子どもは、身体的、精神的にも未熟であり、健康上の問題を引き起こしやすい。各発達段階に適した健康増進や発達促進への支援と共に、健康状態に応じた援助について学ぶ。

「子供の健康状態に応じた看護」

医療技術の進歩は、多くの子どもの命を救うこととなったが、一方で子どもの病気は重症化し、入院生活を余儀なくされることもある。また、ノーマライゼーションの思想から、重症心身障害児や医療的ケアが必要な子どもの在宅医療が進められている。こうした状況の中で、21世紀を担う子ども達が最善の利益を守られ、生き生きとその子らしく生活できるようにさまざまな健康状態にある子どもの成長・発達と、生活する場による子ども達の違いからその子らしさについて理解し、その援助について学ぶ。

「子供の成長発達を支える看護」

「子供の成長発達と看護」「子供のヘルスプロモーションを支える看護」「子供の健康状態に応じた看護」で学んだ小児看護の知識・技術・態度について統合を図る最終科目である。さまざまな健康状態にある子どもの成長・発達や生活を理解することで、子どもの健康を増進し、苦痛を和らげ、その子らしく成長発達していくことに向けた援助を行うことが必要である。

子どもの状態をありのままに観察し、必要な援助を考え実践する、行動の根拠となる知識を再確認しながら判断する過程を繰り返し、子どもを支える家族と共に、子どもの最善の利益を守ることを理解し、それぞれの子どもに適した看護の方法を習得する。

* 都立荏原看護専門学校では、科目名を「子供」、内容を「子ども」と表記する。

【目的】

子どもの権利の尊重を基盤として、成長発達過程を理解し、生き生きとその子らしく生活できるよう、最良の健康状態の保持・増進および健康障害の程度や発達段階に適した看護を理解する。

【目標】

1. 小児看護の変遷や社会的現状から子どもの健康を支えるための看護の役割を理解する。
2. 子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律を理解し、子どもの最善の利益を考える。
3. 健康増進のための子どもと家族の看護を理解し、子どもの日常生活援助を習得する。
4. 小児期にみられる主な症状と経過の特徴に応じた看護を理解する。
5. 子どもの尊厳を基盤として成長発達を支える援助を習得する。

【構成および計画】

科目	単位数	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
子供の成長発達と看護	1	○		
子供のヘルスプロモーションを支える看護	1		○	
子供の健康状態に応じた看護	1		○	
子供の成長発達を支える看護	1		○	

授業計画

科目名	子供の成長発達と看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 小児看護の変遷や社会的現状から小児看護の役割を理解する 2. 子どもの成長発達過程を生活の側面から理解する 3. 子どもの基本的な権利と擁護にかかわる法律を理解し、小児看護における倫理を考える 4. 現代社会における子どもを取り巻く諸問題に気づき、子どもの最善の利益を考える 5. 子どもの健康を支えるための看護の役割について考える					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	小児看護の対象 と目的・役割	小児看護の対象 児童観、育児観、小児看護の変遷 諸統計からみた子どもの現状 小児看護の目的 小児看護の役割	講義 演習	専任教員*		
第 2 回	子どもの成長と 発達	子どもの成長発達の原則 成長発達に影響する要因 形態的成長：身体発育、発育指標	講義	専任教員*		
第 3 回		機能的発達：呼吸、循環、消化・吸収など 感覚機能の発達・運動機能の発達	講義	専任教員*		
第 4 回			心理・社会的発達：認知、情緒、コミュニケーション、社会性、自己意識、母子関係、遊び等 小児看護における概念と理論 アタッチメント理論・認知発達理論 自我発達理論・家族発達理論 身体発育の評価	講義	専任教員*	
第 5 回		子どもの栄養の特徴 小児各期の栄養 食育基本法		講義	専任教員*	
第 6 回			子どもの安全・事故防止 子どもに多い事故と安全対策・安全教育	講義	専任教員*	
第 7 回		子どもの生活と 場		子どもの生活の場を知る 保育園・児童館など子どもが生活している 環境の見学や視聴など	講義 演習	専任教員* 保育士等*
第 8 回	現代社会におけ る諸問題	現代家族の特徴 家族のアセスメント 現代の子どもと家族が置かれている状況 多彩な家庭形態の子どもに及ぼす影響	講義	専任教員*		
第 9 回		現代の子どもと家族が置かれている状況 (子どもの虐待、子どもの貧困、グローバル社会の子どもたち等)	講義 演習	専任教員*		
第 10 回	小児看護・医療 における法律	児童憲章 子どもを保護する法律・政策 児童福祉法 子ども・子育て支援法	講義	専任教員*		
第 11 回		母子保健施策 母子保健法 健やか親子 21				
第 12 回						

回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員
第 13 回	小児看護・医療 における法律	社会福祉法 障害者総合支援法 発達障害者支援法 予防接種法 学校保健安全法	講義	専任教員*
第 14 回	小児看護におけ る倫理	子どもの権利条約の意義と内容 子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律 小児看護学領域で特に留意すべき子どもの権 利と必要な看護 小児看護における子どもの権利 アドボカシー インフォームドアセント プレパレーション	講義 演習	専任教員*
第 15 回	評価			
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論	小児看護学① 医学書院	評価 方法	筆記
備考	小児看護の対象である現代の子どもたちを取り巻く生活環境や成長発達過程を理解する。			

授業計画

科目名	子供のヘルスプロモーションを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 健康増進のための子どもと家族の看護を理解する 2. 小児期にみられる主な症状と経過の特徴に応じた看護を理解する 3. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護を理解する 4. 子どものプライマリヘルスケアについて理解する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	子どもの発達段階に適した生活支援	乳児期の健康増進と家族への支援 栄養と離乳 運動と遊び 感染予防 事故防止	講義	専任教員*		
第 2 回		幼児期の健康増進と家族への支援 食生活と食育 生活リズムと基本的な生活習慣の確立 事故防止と安全教育	講義	専任教員*		
第 3 回		学童期・思春期の健康増進と家族への支援 生活習慣病の予防 齲歯と近視の予防 仲間との関係や学校への適応 親が病気になった子どものケア 成人期への移行支援	講義 演習	専任教員*		
第 4 回	子どもによく見られる症状と看護	急性期症状を示しやすい子どもの生理的、発達の特徴 発熱	講義	専任教員*		
第 5 回		子どもによく見られる症状とその看護 下痢・嘔吐・脱水	講義	専任教員*		
第 6 回		子どもによく見られる症状とその看護 けいれん・呼吸困難・痛み	講義	専任教員*		
第 7 回		小児感染症とその看護 発疹を伴う感染症 発疹を伴わない感染症	講義	専任教員*		
第 8 回	子どもの病気の理解	発達段階別の病気に対する理解の特徴と仕方 幼児前期・幼児後期・学童前期・学童後期	講義	専任教員*		
第 9 回		子どもの病気の理解に影響を与える要因 子どもの年齢、認知能力、過去の経験 家族の状況、知識、経験、価値観 病気の種類、重症度、症状 治療の期間と環境	講義	専任教員*		
第 10 回	外来で出会う子どもの看護	外来における子どもと家族の看護 外来（健康増進・一般・専門・救急）の特徴と看護 子どもの入退院支援	講義	専任教員*		

回	単元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員
第 11 回	病気の子どもの 看護	子どもが入院に伴い体験することと反応 たいせつな人からの分離と新たな関係形成 病気に伴う症状や検査、治療による心身の 苦痛や不快感 環境や生活の変化や規制と自己調整力の脅 かしや成長 子どもの入院に伴う家族の体験と反応 家族の生活や役割の変化 きょうだいへの影響と思い 父母、祖父母への影響と思い ケアを受ける子どもへの説明と同意の重要 性と援助	講義	専任教員*
第 12 回		ケアを受ける子どもと家族への援助 子どもと家族の力を支える援助 子どもの発達段階別援助 多職種との連携	講義 演習	専任教員*
第 13 回		ケアを受ける子どもと家族への援助 入院各期、入院の種類別の援助 退院後の受診判断	講義 演習	専任教員*
第 14 回		ケアを受ける子どもと家族への援助 規則に対する子どもと家族の反応と援助 入院中の子どもにとっての遊びや学習の意 義と援助	講義 演習	専任教員*
第 15 回		評価	修了認定試験	
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術 アドバンス インターメディカ		評価 方法	筆記
備考				

授業計画

科目名	子供の健康状態に応じた看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 医療的ケアを必要とする子どもの看護を理解する 2. 特殊な状況にある子どもの看護を理解する 3. 医療を受ける子どもの最善の利益を守るための看護を考える					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	様々な状況にある子どもの看護	先天異常を持つ子どもと家族の看護 家族の理解と受容過程 家族の心理的準備とケア 退院支援	講義	専任教員*		
第 2 回		障害のある子どもと家族の看護 障害のある子どもの発達の特徴 家族の受容段階とケア 退院支援	講義	専任教員*		
第 3 回		手術を受ける子どもと家族の看護 計画手術 日帰り手術 プレパレーション 子どもの痛みの受け止め ストレス対処への支援 退院指導・継続看護	講義	専任教員*		
第 4 回		救急処置を要する子どもと家族の看護 誤飲・熱傷・溺水・心肺蘇生 乳幼児の意識レベル	講義	専任教員*		
第 5 回		隔離が必要な子どもと家族の看護 行動制限が必要な子どもや感染管理が必要な子ども 病院における安全管理	講義	専任教員*		
第 6 回		長期的経過をたどる疾患をもつ子どもと家族の看護 小児慢性特定疾患 子どもと家族のエンパワーメント 退院支援	講義	専任教員*		
第 7 回		在宅医療を受ける子どもと家族の看護 小児在宅ケアの現状 在宅移行への援助、	講義	専任教員*		
第 8 回		終末期にある子どもと家族の看護 子どもの死の概念 病気の説明 緩和ケア 子どもを看取る家族のケア 退院支援	講義	専任教員*		

回	単元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員
第9回	ハイリスク新生児の看護	ハイリスク新生児の集中治療と看護 在胎週数および出生体重に起因する状態 新生児自身に関与する状態 低出生体重児の看護 NICU、GCUに入院する子どもと家族の特徴 胎外生活への適応を支える看護 成長、発達を支える看護 ディベロップメンタルケア 退院支援、継続支援	講義	専任教員*
第10回	特殊な状況下にある子どもの看護	災害時の子どもと家族の看護 被災地の環境と心身への影響 災害時の在宅看護	講義	専任教員*
第11回		被虐待児と家族への看護 虐待の影響 虐待を受けた子どもへの包括的ケア 関係機関との連携	講義	専任教員*
第12回	医療を受ける子どもの権利	小児看護と倫理的配慮 医療を受ける上で起こりやすい問題 医療、治療の選択と決定を支える看護 子どもへのケア	講義 演習	専任教員*
第13回		医療を受ける子どもの権利について事例検討	演習	専任教員*
第14回		医療を受ける子どもの権利について事例検討	演習	専任教員*
第15回	評価	修了認定試験	筆記 提出物	
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術 アドバンス インターメディカ		評価 方法	筆記
備考				

授業計画

科目名	子供の成長発達を支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次	
科目 目標	1. 子どもの日常生活援助技術を習得できる 2. 子どもや家族との関わりに必要なコミュニケーションスキルを習得できる 3. 子どもの尊厳を踏まえ、発達を考慮した援助を理解する 4. 検査や治療が必要な子どもに対する援助を理解する 5. 子どもと家族を理解するための思考過程を理解する 6. 子どもの権利を尊重した看護を実践できる						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>			
第 1 回	健康問題を持つ 子どもの看護	Caselearning1 子どもの事例の提示 (川崎病・気管支喘息・ネフローゼ症候群・ 白血病・骨折 などのうち 1 事例を展開) 情報収集と整理 子どもと家族を理解する視点 (健康状態・成長発達・家族)	講義	専任教員*			
第 2 回	子どもの日常生 活に必要な援助	Caselearning2 日常生活援助 子どもの抱き方、衣服の着脱・おむつ交換 身体計測	校内 実習	専任教員*			
第 3 回		子どもの権利を 尊重した援助	Caselearning1 子どもの生活を阻害している因子の分析 解決に必要な援助計画	講義 演習	専任教員*		
第 4 回			Caselearning2 子どもの最善の利益を考えた援助 (プレパレーション、ディストラクションを 用いた援助) ベッド柵の取り扱い ヘルスアセスメント 一般状態の観察、バイタルサイン測定、 フィジカルアセスメント	校内 実習	専任教員*		
第 5 回				Caselearning2 事例に応じた検査・処置・治療の援助 (固定法・採血・採尿・与薬など) 事例に応じた吸入・吸引、点滴治療(輸液ポ ンプ・シリンジポンプ使用時)の観察	校内 実習	専任教員*	
第 6 回		評価					
第 7 回							
第 8 回							
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術 アドバンス インターメディカ		評価 方法	筆記・レポー ト等			
備考	事例に基づいた実践的な小児看護技術を学んでいく。演習を通して実践力を養えるように 子どものヘルスプロモーションを支える看護、子どもの健康状態に応じた看護を復習して おく						